

風水害から身を守る

環境防災課 84-0314

昨年9月に発生した台風15号は、各地に大きな被害をもたらしました。開成町でも、樹木が倒れたり木や屋根瓦が飛散したりするなど被害が発生しました。

また、昨今、世界各地で異常気象による災害が多発しており、深刻な社会問題となっています。

一人一人が風水害から自分の身を守るポイントと避難するときのポイントを今一度確認してみましょう。



台風で増水した酒匂川

風水害から身を守るポイント

- 気象情報に注意し、発表される最新情報を手する。
- 停電や断水に備えて、事前に懐中電灯や携帯ラジオ、飲料水などを準備し、避難に備えていつでも持ち出せるようにしておく。
- むやみな外出は避け、危険を感じたらすぐにその場を離れる。
- 高齢者、乳幼児、病人などのいる家庭は早めに避難を開始し、近所のお年寄りなどの避難に協力する。



避難するときのポイント

- 長袖、長ズボンで動きやすい服装、頭にはヘルメットや防災頭巾を着用し、運動靴で避難する。（長靴は歩きにくくなるため、避難の際には着用しない）
- 道路が冠水したときには、長い棒などを使い、足元を確認しながら避難する。（目で見えないため、危険な箇所がある）
- 水深に注意し、水の流れの速いところは水深が浅くても避ける。（歩行可能な水深は約50センチ）
- できるだけ集団で行動し、高齢者や子どもに配慮しながら、早めの避難を心がける。
- 非常持ち出し品は必要最低限にして、背負い、手は自由に動かせるようにする。
- 万一逃げ遅れた場合は、最寄の2階以上の丈夫な建物に避難する。

車での避難はやめましょう

車での避難は交通渋滞や緊急車両のさまたげになります。また、水深が30センチを超えると、ほとんどの車のエンジンは止まってしまいます。車での避難はやめましょう。



避難情報に注意し速やかに避難しましょう

役場や消防団からの避難情報や呼びかけに注意し、避難勧告が出された場合は、危険が迫っているので、指示に従い速やかに避難しましょう。

いざというときの備えがたいせつ

災害はいつ起こるかわかりません。日ごろから災害に備えることで、いざというときに気持ちと時間に余裕が出てきます。そのためにも、日ごろから注意深く正確に気象情報などを入手すること、あわてることなく行動することが、危険な場所から早く離れることがたいせつです。

ハザードマップを活用しましょう

開成町ハザードマップは神奈川県が作成し公表している浸水想定区域図に、避難所や避難情報などを示したものです。もしもの場合に備えて、水害から身を守るために日ごろから家庭や地域で話し合い、避難経路の確認など安全な避難行動に役立ててください。

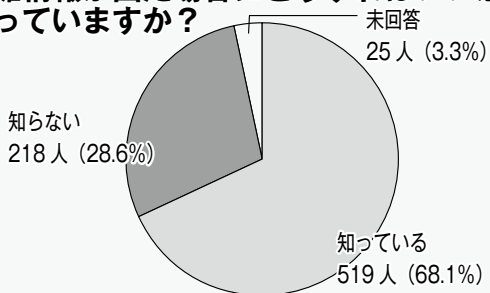
ハザードマップは町ホームページからダウンロードできます。また、環境防災課でも配付しています。

皆さんの声を今後に活かします

浸水対応避難訓練実施報告

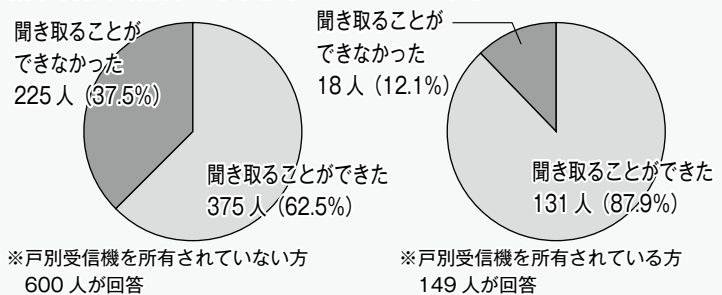
町では、浸水被害の発生が予想されるときに、どのような情報がどのような方法で皆さんに伝えられるのか、また、その際の行動を理解していただくため、3月11日に浸水対応避難訓練を実施しました。訓練の実施後、町民の皆さん、762人にアンケートにご回答いただき、貴重なご意見を多数いただきましたので、その内容等をお知らせします。

避難情報が出た場合にどうすればいいか知っていますか？

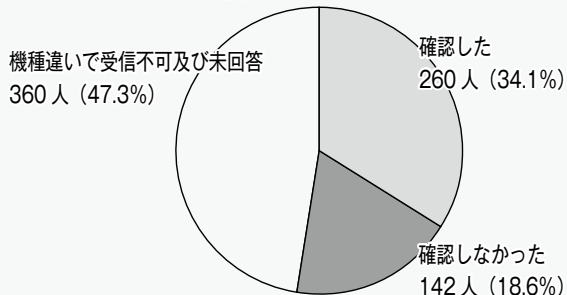


避難誘導訓練の様子

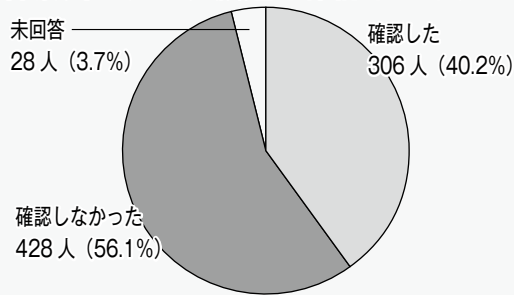
防災行政無線は聞き取ることができましたか？



エリアメールを確認しましたか？



テレビ神奈川のデータ放送を確認しましたか？



今回の訓練を通じて、次のようなご意見・ご要望をいただきました。

Q 訓練は全地区、全住民で実施するべき。避難区域内の施設に避難するのはおかしい。

A 避難訓練のほか広域避難所でも訓練を行うため、参加人数を限らせていただきました。今後は、地区ごとに避難場所の確保を進め、細やかな訓練ができるよう検討していきます。

Q 防災行政無線が聞き取れない、聞こえるように工夫すべき。

A 無線は屋外で聞こえることを基準に設置しています。放送の最初の合図「ピンポンパンポン」が聞こえたら放送に注意してください。また、情報伝達手段の多様化のため、今年度放送内容が確認できるテレホンサービスを導入を予定しています。

Q テレビ神奈川のデータ放送の受信方法がわからない。

A テレビ神奈川（3チャンネル）の画面でリモコンのdボタンを押すと受信することができます。



tvk データ放送画面

Q 他社の携帯電話でもエリアメールを受信できないか。

A 現在は1社ですが、他社の携帯電話会社のサービスも順次導入します。

東日本大震災の発生により浸水も減災の対象としてクローズアップされてきました。住民の皆さんと一緒に備えをしていかなければなりません。皆さんからいただいたご意見・ご感想を参考にしながら、より災害に強い町づくりを進めてまいります。